

陣内秀信（じんない ひでのぶ）プロフィール

世界の都市・居住空間を調査する建築歴史家。

世界各地に、歴史をもった素晴らしい都市がある。その空間的な特徴がいかに形成されたか、現地でのフィールド調査を通して描き出す。特に、イタリアやスペイン、イスラーム圏の地中海都市を取り上げ、同時にまた、東京などの日本の都市に比較の視点を入れて研究し、今後のまちづくりについても考える。



研究テーマ：水辺都市の空間構造に関する研究

社会的活動：日本建築学会、建築史学会副会長、地中海学会事務局長、日伊協会常務理事、雑誌『東京人』編集委員、杉並区都市計画審議会委員

業績：東京の空間人類学（筑摩書房）、サントリー学芸賞、建築史学会賞、地中海学会賞、日本建築学会賞、イタリア共和国功勞勲章。

1947年福岡県に生まれる。1973年から1975年にかけてイタリア政府給費留学生としてヴェネツィア建築大学に留学、翌年にはユネスコのローマ・センターに留学した。帰国後、1983年東京大学大学院工学系研究課博士課程修了。その後、東京大学工学部助手・法政大学工学部建築学科助教授を経て、現在は法政大学工学部建築学科教授。特定非営利活動法人歴史建築保存再生研究所理事。中央区立郷土天文館（タイムドーム明石）館長。

イタリア建築・都市史を主な研究領域とする。イタリアを中心に、イスラーム圏を含む地中海世界の都市研究・調査を行う。また、ヴェネツィアとの比較から江戸・（戦前の）東京が水の都であったことなどを論じた、『東京の空間人類学』でサントリー学芸賞（社会・風俗部門）を受賞した。芸術・建築関連の雑誌での解説も多い。NHK 人間講座「地中海都市のライフスタイル」（2001年6月～7月期）に講師として出演。2003年度の建築学会賞（論文部門）を受賞。



生活や歴史の関わり調査を通して、
現地の人と交流（イタリア・パトリ）



広場の空間を立体的に表現する（イタリア・アマルフィ）



中世地中海都市アマルフィの研究（連続立面図）

代表著書

「東京の空間人類学」

「都市を読む-イタリア」

「ヴェネツィア - 水の迷宮都市」

「都市の地中海」他